

国際競争力強化に資する認証について

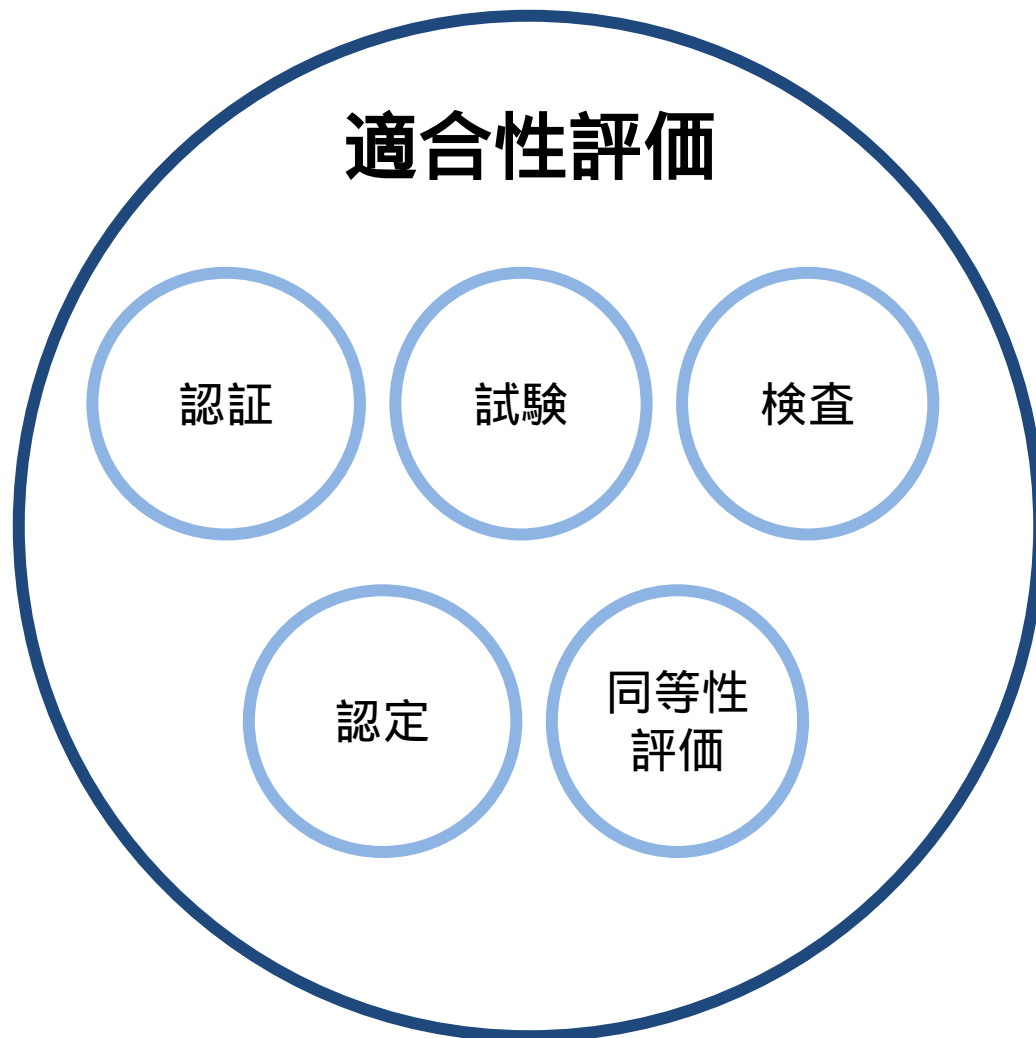
2013年12月18日

経済産業省 産業技術環境局
認証課長 和泉 章

「適合性評価」の概念

「適合性評価」とは：

標準・規格などで求められている事項が、製品・サービス・プロセスなどで満たされているかを確認すること

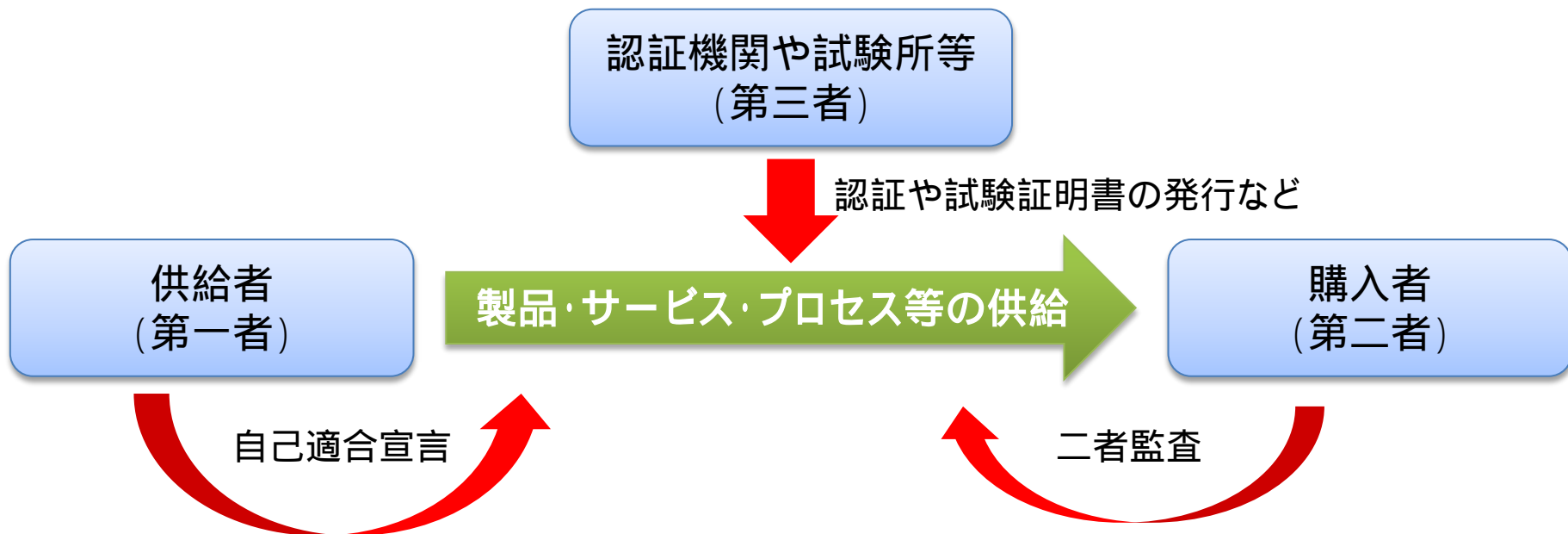


「認証」の概念

U 適合性を評価する者による分類

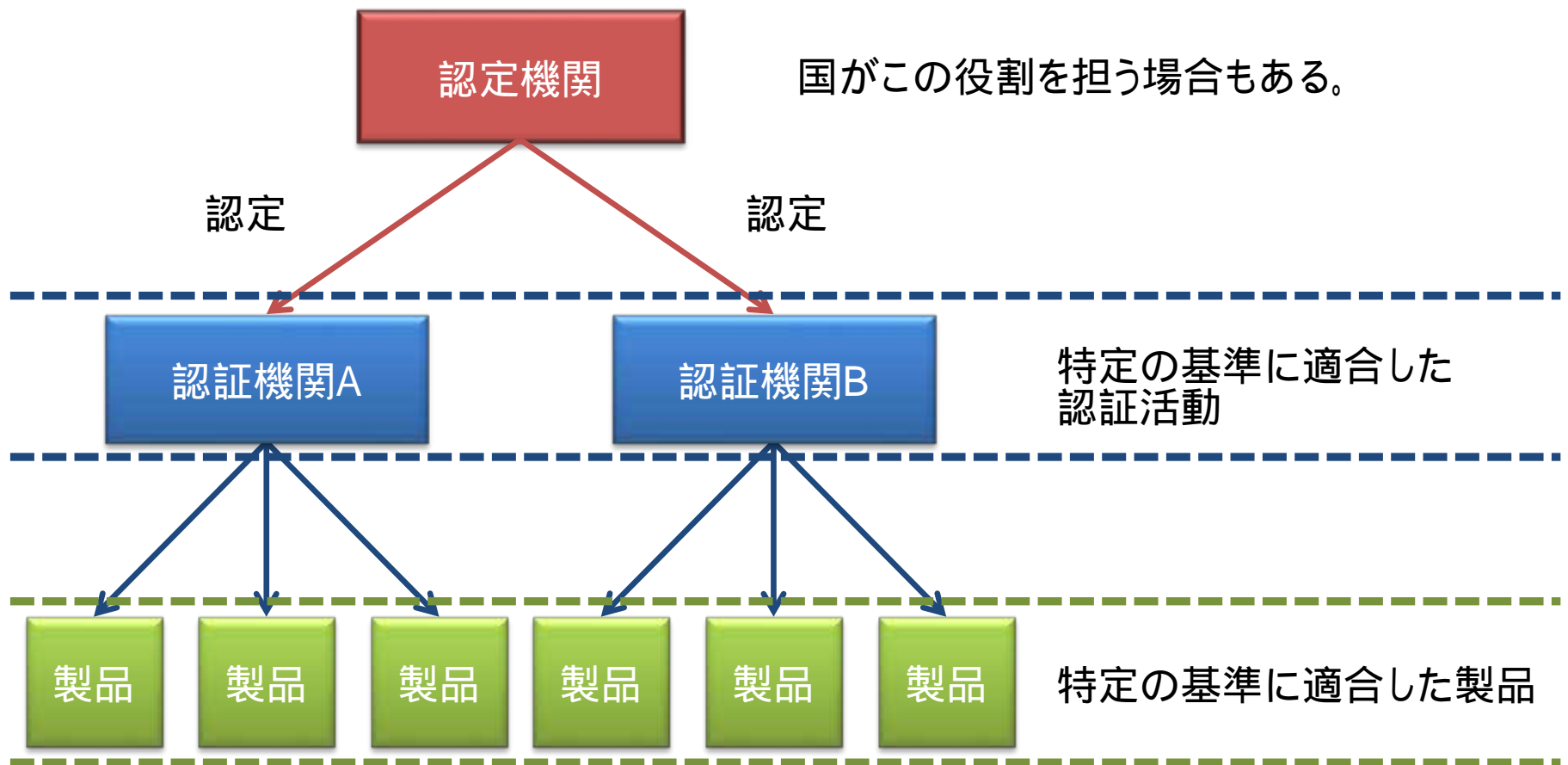
- ・第一者評価(製品等の供給者自身による評価) 自己適合宣言
- ・第三者評価(製品等の購入者による評価) 二者監査
- ・第三者評価(供給者でも購入者でもない第三者による評価) 認証

U 製品、プロセス、サービスが標準などの特定の要求事項に適合していることを第三者が文章で保証する手続きを「認証」(Certification)と呼びます



適合性評価活動の信頼性を担保する認定—認証制度

- 適合性評価機関の力量を担保する機関(認定機関)の導入により、制度全体の一貫性や信頼性を担保



認定 - 認証が行われている例

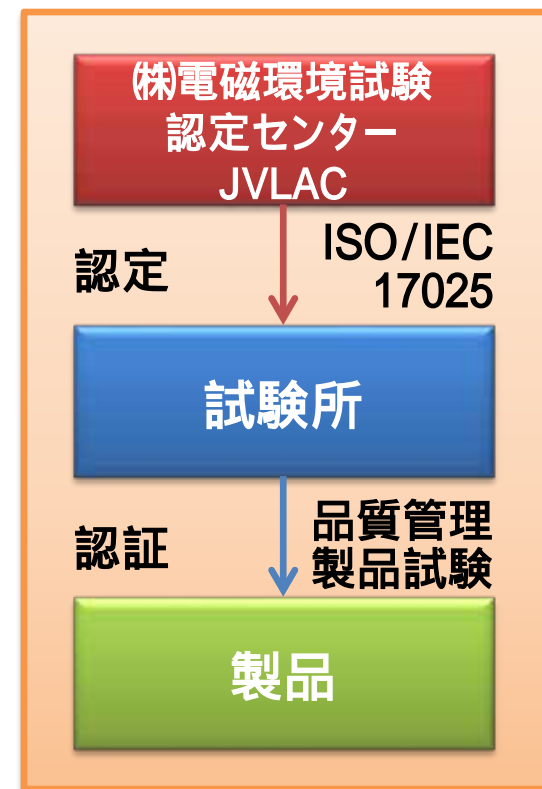
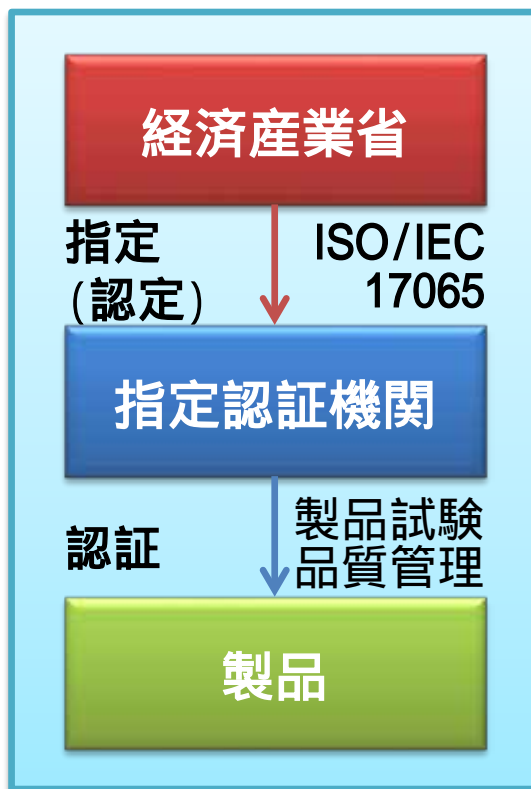
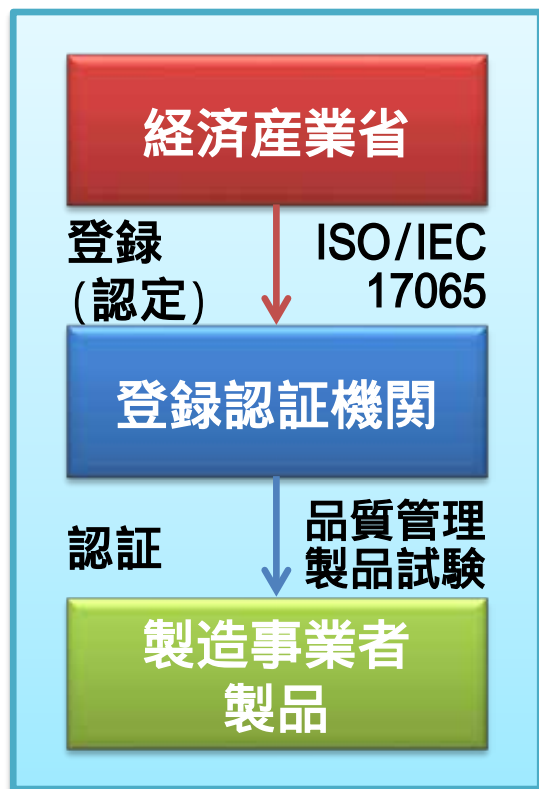
国の制度

JISマーク制度

電気用品安全法

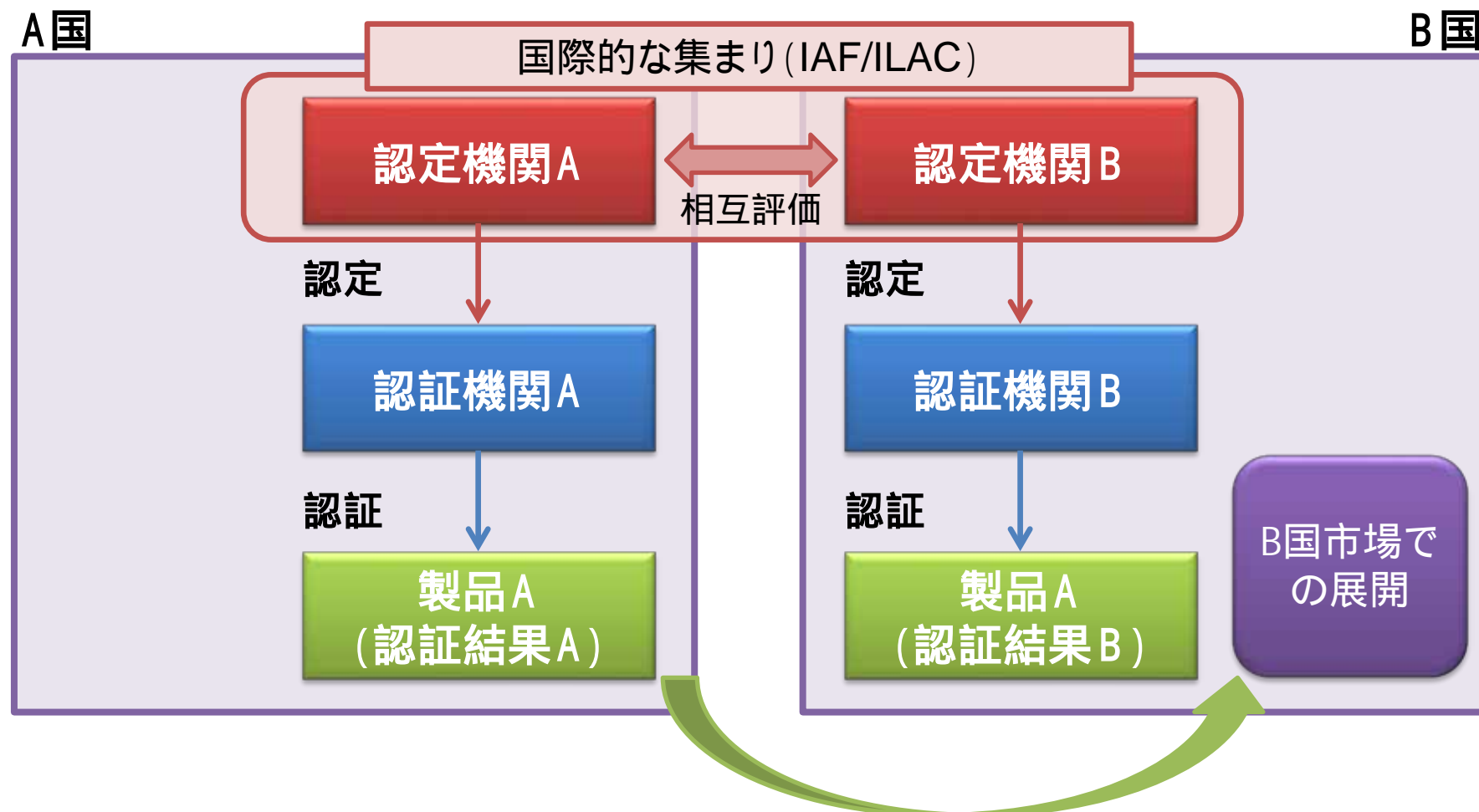
民間の制度

EMC



認定機関の国際的な連携

- U 認定機関同士が、国際的な枠組み内で相互評価を実施。
- U 認定機関の力量の同等性を担保する事により、認証結果の国際的な信頼性向上に寄与。



- U 特定の業界や技術に特化した団体が運営している任意の認証制度も増加

例) Bluetooth : Bluetooth SIG

Wi-Fi : Wi-Fi Alliance

USB : USB Implementers Forum

DLNA : Digital Living Network Alliance

HDMI : HDMI Licensing

Qi : Wireless Power Consortium

電気・電子業界が認証に積極的な関与が必要な理由

- U IECにおいて電気安全に関する認証制度(マークを含む)が構築され、各国の規制当局においてその制度活用が進んでいること
例) IECEx, IECQ, IECEx
- U 認証を新たな市場開拓、競争力強化の手段として活用する方が広がっていること
例) 生活支援ロボット、光触媒、風力発電など

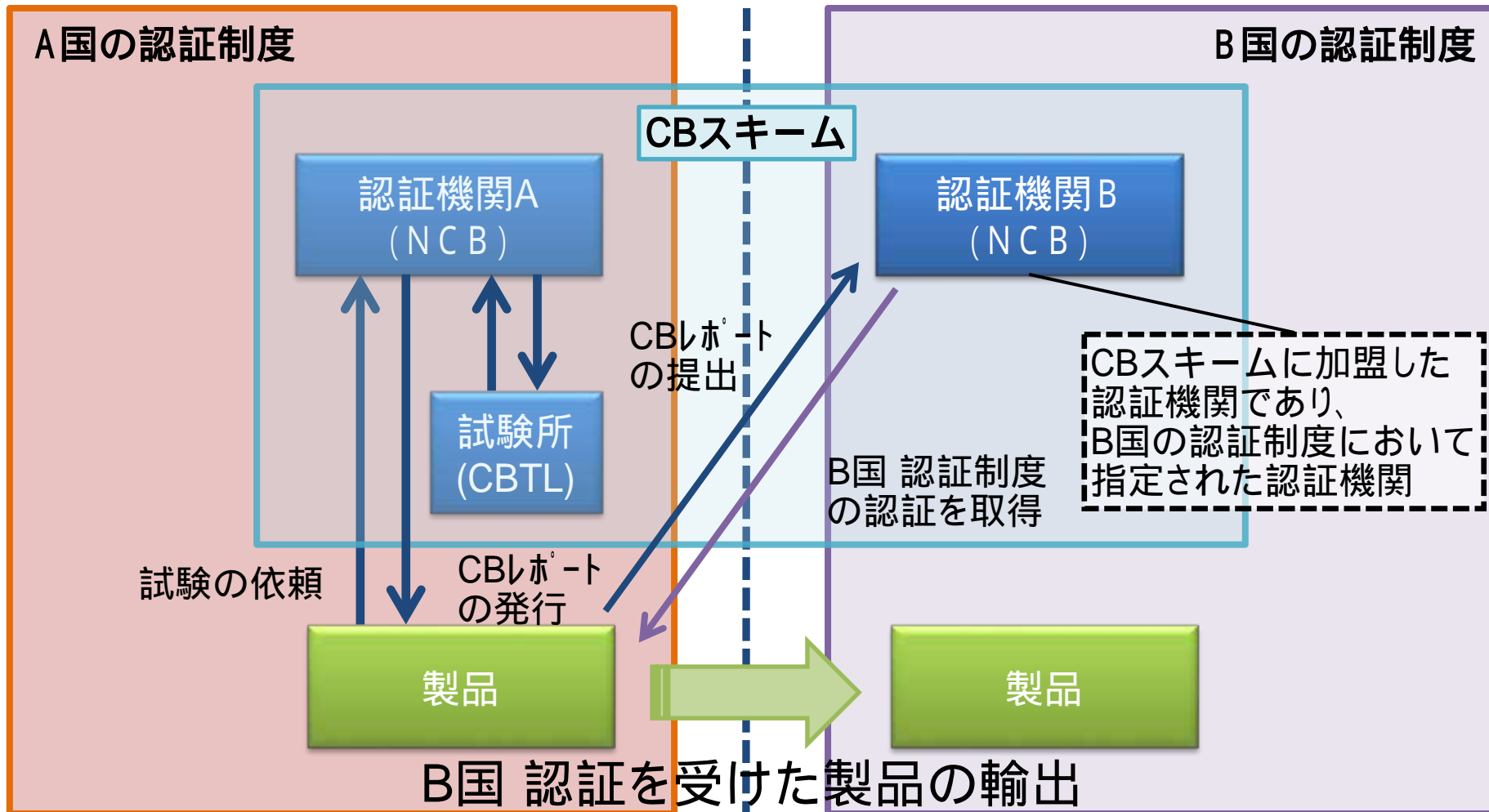
世界の電気安全等の認証制度(マーク制度)例

U 新興国においても導入が進展。ビジネスを円滑に進めるためには戦略的な認証取得が重要



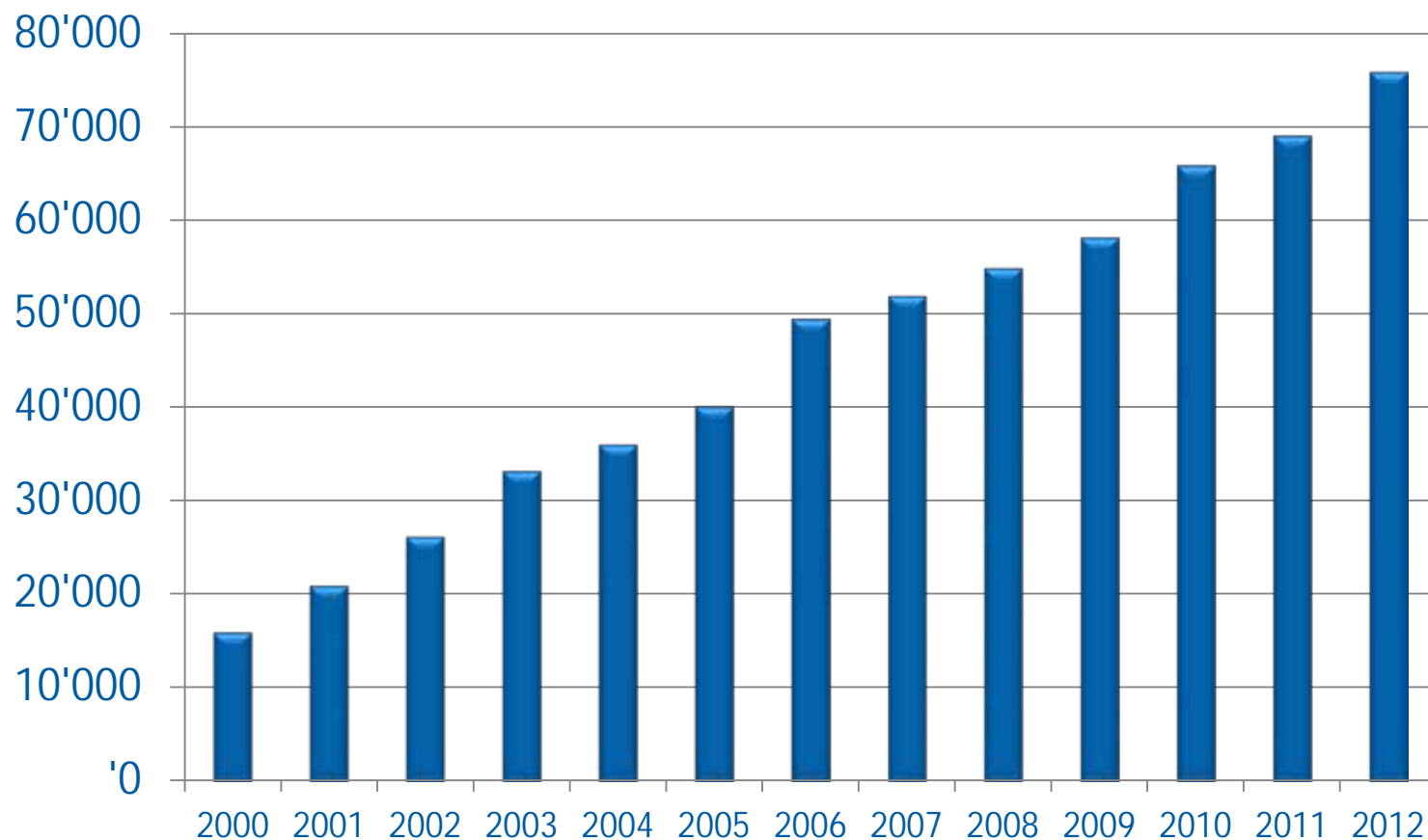
CBスキームを活用した各国の認証取得の円滑化

- CBスキームはIECのIECEEにおいて1985年にスタート
- 世界の電機メーカーは、試験結果(CBレポート)を世界各国における認証取得に積極的に活用



世界的に企業のCBレポートの活用は活発化

- u 毎年発行されるCBレポートの数は年々増加。2012年は7万件超
- u 各国の認証を円滑に取得するツールとして今後とも重要な役割



IECの制度づくりには、日本の電機産業も積極的に関与

- u CBスキームは、産業界・認証機関の主体的・持続的取り組みにより実現
- u 新たに再生可能エネルギーの制度構築に着手。産業界の積極的関与が重要

IECの組織構造

IEC

CAB

議長：藤澤 浩道(株)日立製作所)

委員：12カ国

日本委員：梶屋俊幸(パナソニック(株))

IECEE

議長：Ron Collis

副議長：近藤 繁幸(JQA)

IECEX

IECEQ

IEC RE

(再生可能エネルギー)

日本国内の組織体制

CAB国内対応委員会

IECEE国内委員会(事務局：JEITA)

認証機関：JET, JQA, TUV, UL

産業界：JBMIA, JEMAJEITA, 医機連 他

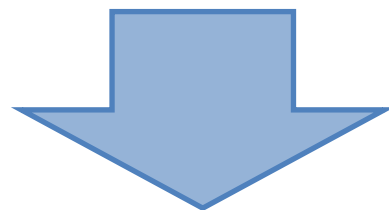
IECEX国内委員会

IECQ国内委員会

IEC RE 国内委員会(仮)

我が国企業の競争力に資する認証基盤を検討

- ・適切な性能評価による健全な市場の育成
- ・先端分野の安全性評価による市場形成の促進
- ・リスクベースの安全設計評価に対応できる人材の育成



「グローバル認証基盤整備事業」(平成24年度補正予算事業)

グローバル認証基盤整備事業(平成24年度補正予算)

事業の内容

事業の概要・目的

蓄電システム、風力、高度部素材等の戦略産業分野においては、各国が国際標準を獲得すると共に、認証基盤(第三者による安全性や性能等の証明)の構築を進めている。

そこでトップスタンダード対象分野を中心とした戦略重点分野において、製品・システムの安全性や性能を第三者の立場から包括的に証明できる国内認証体制の基盤構築を検討する。
(認証主体の検討、評価施設の設計等ブループリントの作成)

加えて、アジア等新興国との評価方法の共通化や認証システム構築の協力等を通じて、海外展開を見据えた認証基盤整備を行うことにより、我が国産業の新興国市場展開を促進する。

事業イメージ

国家標準
化機関

認証機関

試験所

製造
メーカー

協働・連携

安全・性能面での試験・評価を行う基盤の整備



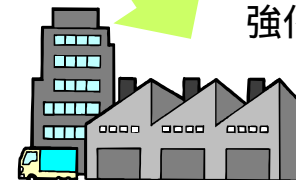
人材確保・育成/
認証体制の基盤構
築等の整備

我が国の企業等へのソフトインフラ提供も含めた認証基盤の整備により、新興国市場の獲得及び産業の競争力強化を図る

新興国市場
への展開



産業競争力
強化



本事業で取組んでいる9つのテーマ



大規模分散電源関連設備



生活支援ロボット



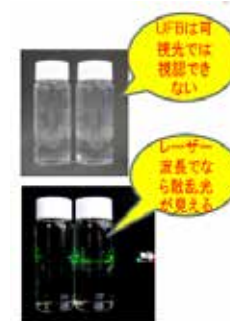
制御システムセキュリティ



鉄道システム



大型風力発電システム



ファインバブル



LED電球及び照明

再生医療

高度部素材

企業、大学、認証機関、産総研等が一体となり、生活支援ロボットの開発、安全性に関わる基準作成及び国際標準化活動、安全性評価手法開発などを実施。



生活支援ロボット安全検証センター

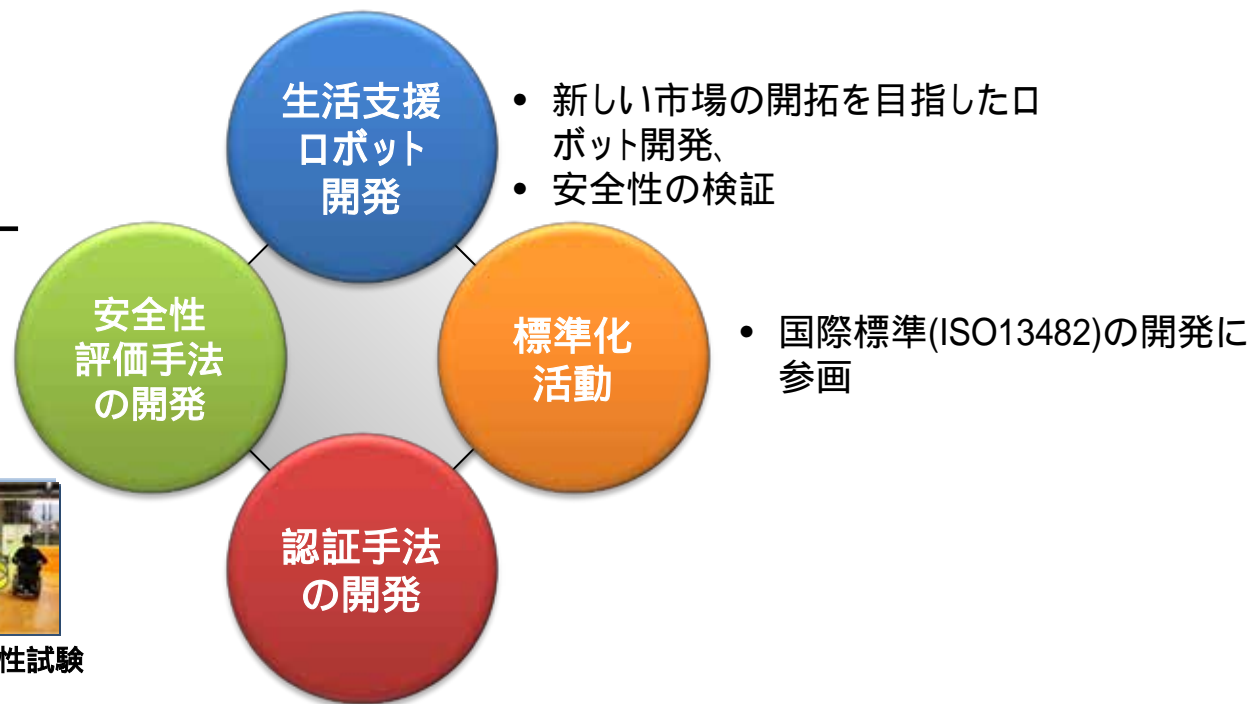
- リスクアセスメント手法、
- 機械・電気安全・機能安全等



衝突安全性試験



走行安定性試験



- 2012年度 ISO13482のドラフト(DIS)版にて、パイロット認証を実施
- 2013年度 F/S調査において、第三者の安全性評価を活用した市場開拓の促進の可能性について検討中



ロボットスーツHAL福祉用
サイバーダイン(株)



サービスロボット安全認証マーク
一般財団法人 日本品質保証機構

ご静聴ありがとうございました。